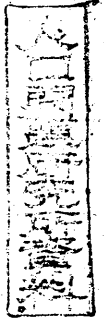


## 第37回人口問題審議会総会議事概要



日 時 昭和54年7月6日(金) 14時～16時  
 場 所 ホテル竹橋会館(丹頂の間)  
 出席者 青井和夫委員 伊藤善市委員 岩間一郎委員  
 岩間英太郎委員 尾本信平委員 木内信蔵委員  
 久保秀史委員 國井長次郎委員 黒田俊夫委員  
 小林貞次委員 坂元貞一郎委員 篠崎信男委員  
 武見太郎委員 田中克己委員 土居山義委員  
 縫田暉子委員 逸見謙三委員 松山榮吉委員  
 安川正彬委員 山口正義委員 山田雄三委員  
 山本幹夫委員

青木尚雄専門委員、岡崎陽一専門委員

浜英彦専門委員 河野桐果専門委員

村松稔専門委員

## 議 事 概 要

1. 開会(会長選出まで、山口委員が座長として議事を進行)

2. 委員紹介(企画室長より全委員の紹介)

3. 会長互選(黒田委員より山田委員の推せんがあり、全委員賛成で決定。)

4. 総会開会

山田会長挨拶

ご指名によりまして、会長の任務を果したいと思っております。人口問題と申しますのはだんだん細かい議論がなされるようになりまして、例えば、老人問題とかあるいは地域問題とかいろいろ細かい審議が一方では必要となっておりますが、また他方、全体の観点から経済社会の関係、人口変動等が絶えず見通さなければならぬ情勢だと思っております。この審議会は長い間いろいろ有意義な建議あるいは開陳をやってまいった審議会でございますので、引き続き皆様の協力によりまして、審議会を運営してまいりたいと思っておりますのでよろしくお願い致します。

5. 会長代理互選(黒田委員より、山口委員の推せんがあり、全委員賛成で決定。)

会長代理挨拶

私たいへん不敏でございますが、ただ今、会長代理にと

いのご指名がございましたので、会長並びに委員の皆様方のご指導とご援助によりまして、その職責を果してまいりたいと存じますのでどうぞよろしくお願ひ致します。

#### 4. 厚生事務次官挨拶

厚生事務次官の曾根田でございます。

本日は、厚生大臣が出席して皆様方に親しく御挨拶申し上げる予定でございましたが、所用のため出来ませぬので、私から一言御挨拶を申し上げます。

人口問題は、あらゆる国において国の行政の基盤となるべきものであります。本審議会におかれましては、昭和28年に発足以来今日まで、この問題について広い視野から審議を進められ、機会あるごとに適切かつ有益な御意見を提出してこられたのでありまして、その成果は内外の各方面から高く評価されているところであります。この機会に深く敬意を表したいと存じます。

また、このたび、委員の方々の任期満了に伴う改選を行うことになりまして、皆様方に委員のご就任方をお願い申し上げておりましたところ、快くご承諾を頂き、ここに総会開催の運びとなりましたことを厚く御礼申し上げる次第

であります。

ご案内のように世界の人口はすでに40億人を超え、21世紀のはじめには60億人を上回ると言われており、資源問題・食糧問題の基本となる事項として重要なテーマとなっているところであります。

しかしながら、世界の人口問題も、発展途上国においては、依然として、如何にして人口爆発を抑制するかが大きな問題であります。一方、ヨーロッパ諸国をはじめ日本を含めた先進諸国においては、むしろ出生率の低下と人口の高齢化のなかで如何にして活力ある社会を維持発展させていくかが大きな課題となっているところであります。

我が国は、ご承知のとおり、早い時期に低出生率の国となり、人口の高齢化が今後急速なテンポで進むと見込まれており、21世紀初頭には現在のヨーロッパ諸国並み以上の高齢化社会を迎えるわけであります。

高齢化社会の到来とこれに対する対応につきましては、本審議会において つとに御意見をいただいているところであります。現在厚生行政の当面する課題は、まさしく、高齢人口の増大に対応してどのようにして豊かで健康で生きがいのある生活を保障するか、そして次代の社会を担う

児童の健全な育成をどのようにして図っていくか等の諸問題であります。

我が国をとりまく経済環境はまことに厳しいものがありますが、豊かな高齢化社会を築くための最善の準備をすることは、後代に対する私共の最大の責務であると考え、今後とも各般の施策に努めてまいり所存であります。

委員各位におかれましては、今後とも専門的立場からのご助言を賜り、厚生行政のみならず国の各般の行政推進のために積極的なご支援、ご協力を頂きたく、心からお願い申し上げます。

ア、部会の構成（山田会長より、部会所属委員を指名。）

第1部会	青井和夫委員	石橋幹一郎委員	伊藤善市委員
	及川一夫委員	大来佐武郎委員	加藤 寛委員
	黒田俊夫委員	澤村嘉一委員	篠崎信男委員
	柴田鉄治委員	縫田瞳子委員	逆見謙三委員
	堀川淳弘委員	安川正彬委員	

以上14名

第2部会	岩間一郎委員	岩間英太郎委員	尾本信平委員
	木内信蔵委員	久保秀史委員	国井長次郎委員

小林貞次委員 坂元貞一郎委員 武見太郎委員  
田中克己委員 土居山義委員 松山榮吉委員  
山口正義委員 山本幹夫委員

以上、4名

8. 部会長互選（坂元委員より、会長提案を求める発言があり、山田会長が、第一部会長に黒田委員を、第二部会長に山口委員を提案、全委員賛成で決定。）

## 9. 報告

- (1) 「第20回国連人口委員会の概況について」-----  
篠崎信男委員より報告
- (2) 「世界人口の新しい動向について」-----河野桐果  
専門委員より報告
- (3) 「地域人口移動の動向について」-----岡崎陽一  
専門委員より報告
- (4) 「昭和53年度実施調査の長期人口変動に対する地域  
住民の意識と環境に関する調査について」-----浜英  
彦専門委員より報告

## 質疑応答

坂元委員：西ドイツの出生率は、79年頃から1割を割って9%台にはなっていますが、ここに書いてある以外に、この低減傾向というのは何か特別な事情があるのか伺いたい。

河野委員：西欧では、軒並み有配偶率が減っており、子供を生む場がだんだん縮小しているということ。また、西独では個人を中心とした快樂主義が強いことがある。しかし、西独政府はそれに対して必ずしも特別の政策というものを採っているようには思われない。

安川委員：3点について伺いたい。

- ① 意識調査の質問中の将来人口と51年1/1月推計のそれとの関係はどう考えているのか。
- ② 将来人口、人口問題は国の施策の中で基本であるという限り、やはり新しい人口推計を出して、それによって審議していく必要があるだろうと考えますが、それはこの審議会で討議した結果行うのか。あるいは

厚生省で実行するのか。

- ④ 意識調査の質問の中で、若年層と60歳以上の年齢層とで、人口を増やすか、減らすかという意識が違ふという話がありましたが、出生に無関係の60歳以上の年齢層の将来人口の増減についての回答をどのように解釈するのか。

篠崎委員：（会長より篠崎委員に要請あり、回答する。）

私どもは絶えず人口の推計、動向を把握するために、研究を行っています。しかし、推計人口は、影響が甚大です。それを厚生省の正式な発表とすることについては、慎重でなければならない。研究という点から絶えず人口動向の追跡をしているが、昭和55年の国勢調査では、出生力調査の項目を採り上げないような気運があり、今後の人口推計の作業がやりにくくなると思います。この仕事は人口問題研究所がずっとやってきた歴史があります。

また、調査に当っては、一般の人々に聞く



人口の大きさをとして一応、1億3千万を設定したものです。

最後の点について、国民の人口問題についての考え方は、重要な情報であり、人を国全体で育てるという意味から人口の資質面をとらえたものです。

企画室長：厚生省の正式発表は、51年11月のもので50年の国調を基準人口にして計算したものです。

次の推計は、55年の国調を基準人口として翌年の秋頃を目途に発表したい。

さらに、問題意識としては、先進国に共通の1970年代に入ってから異常な程の出生率の低下の傾向に強い関心をもっています。

浜委員：この調査の対象は20歳以上の男女すべてから抽出しています。ここでは日本人口の大きさを家族レベルで聞いている訳ではなく、すべて個人ベースでその意見や意識を聞いています。

武見委員：ドイツでは、出生率が9.5になっていますが、

7年前に国民的な性教育の教科書を作り、国内すべてに頒布され、学校でもその教科書に基づいて性教育が行われているようです。

この教科書の影響をドイツの厚生省に聞きましたら、どうであるか分らないとその時は言っていました。おそらく、私はこれが相当の影響があったんじゃないかと考えておりますので付け加えておきます。

山本委員：私が東南アジア教育閣僚会議に出席した折に、人口数、死亡数、出生数が正確に揃えられている国々は少ないという話を伺いましたが、それらの国々の数字の信頼度はどの程度に考えていいものか伺いたい。

河野委員：国連の人口推計と申しましても、85%くらいは、いかに悪いデータを良くするかということに全力を集中する訳です。

日本は違いますが、世界の人口学の主流はいかにデータの悪い所を良くするかということです。さらにいろいろな推計がありまして、受当なところをとりましたのが、用意した資

料です。

国連として数字を発表しておりますが、世界の人口はどの位の誤差があるかというところ、一番悪い所で、8%～10%位の誤差が見込まれています。

青井委員：若い世代の人口の増減に対する態度は現状維持の方を選択しているか、あるいは、今後の成り行きを見てというような態度がはっきりしない方に傾いておるのか伺いたい。

浜委員：青年層がどうかというのはデータをもう一度調べないと分からないが、「しばらく様子を見る」、「不明・無回答」が大部分のようだと思います。

木内委員：人口面から見ると、低開発国の中にもいろいろな段階のものがあると思うが、それはどのようにして区分しているのか、最近では経済的な中進国という言葉も使われていますが、開発の程度と人口増加率の減少とどの様に組み合わせて、考えているのか伺いたい。

河野委員：今やっていますのは、中近東及び南米の一部。

の取り扱いが問題となりますが、地域によって分けるのが一般的です。

黒田委員：最近の日本の国土における人口移動の変化、特徴を非常に明確に指摘されたが、この移動の変化の理由を、調査その他の方法を通じて明確にしていただきたいという希望を申し上げます。

岡崎委員：人口移動部では、以前「人口移動に関する調査」を行いました。機会があれば、また、そういう調査を行い、今、ご指摘の理由についても明らかにしたい。

安川委員：篠崎委員の資料に「各国の収入分布の人口統計的展望」とあるが、どういうことを言っているのか。又、「開発における婦人統合の人口統計展望」の「婦人統合」という意味を伺いたい。

篠崎委員：「各国の収入分布の人口統計的展望」は、発展途上国と先進国との較差というものを、はっきりさせるため、1人当りの数字、あるいはG.N.P. というような数字と人口統計の数字と

の関連を分析するという立場で、これを説明していた。

「婦人の統合」というのは、婦人の地位の向上等婦人問題を取り入れて人口問題は考えるべきであるという内容です。

小林委員：篠崎委員の報告の冒頭で共通認識ということについて人口委員会がクワの柱を立てて、ご説明がりましたが、その中の3番目に子供を生むこと、子供を生む間隔ということについては夫婦が自由に決めることであると、説明がりましたが、この3番目の柱が立つに至った背景について伺いたい。

篠崎委員：これは、おそらく国際人権宣言の立場をとっているからと思われる。ただし、各国政府は国民の出生に対する、技術並びに教育・知識を平等に与える努力をすべきであるという前提があるようです。

#### 10. 今後の運営について

山田会長：審議会の、今後の運営の問題に入ります。

人口の問題は、出生率の問題、経済社会との関係もあり、巾の広いものです。特に最近が高齢化という問題にからめて社会保障をどうするか、あるいは雇用問題をどうするか等、いろいろな問題が人口問題に絡んできます。

そこで、本審議会では、今後どのようにこういう問題を取り上げていくかということについて、ご意見を伺いたい。

ひとつの当面の問題として、将来の人口動向、その基礎は出生率ですが、その出生率の低下ということがいろいろ問題になっており、我が国の人口構成の変化を考えるうえで、この出生の動向というものをどう考えるかということが、ひとつの大きな問題だと思ふ訳です。

そこで、先程部会を設けましたけれども、部会とは別に、この出生率をめぐる問題について、特別委員会を設けて検討していくことが望ましいと考えられます。

この点について事務局の方から説明されたい。

企画室長：人口問題審議会令の14条及び人口問題審議

会の部会及び特別委員会の規定の第2条に基づき、国際的、あるいは国内的にも問題になっている出生力の動向について、特別委員会を設けたい。1970年代にはいつての出生率の低下は先進諸国に共通しているが、我が国の場合、特に世界に類をみない急激な死亡率の改善と、出生率の低下により、人口構成は急速に高齢化し、それが、国の社会経済面に与える影響は極めて大きい。厚生省としては、社会保障、社会福祉の分野で、この高齢化にいかに対応していくかということが最重要課題になる。それだけに、将来の人口構成に重要な影響をもつ出生力の動向を的確に把握し、あらゆる行政の基礎とする爲にも、少なくとも20年ないし30年後の人口推計をより正確なものにしていく必要があると、事務的に考えています。

この爲、出生力の動向については、従来と比べて、一層多角的な面からの深い掘り下げが必要で、先進国共通の出生率の低下は、

従来の人口学的な側面からだけの掘り下げでは不十分で、社会経済面、医学的な面、文明論的な面、人間観の時代推移へのアプローチ及びエコロジカルな面から見た人口論という様な議論等、その幅広い専門分野からの検討を加えて、総合化の中から、より良い人口の見通しを行いたい。

### 質 疑 応 答

尾本委員：現在、世界的な規模で経済開発が行われていますが、これが進展するに従って、1人当りの天然資源の消費量が増大します。一例を上げますと非鉄金属系統でソ連が最近ものすごく鉛の買い付けをしています。はっきりしたことは分りませんが、民生の向上で自動車が普及し始めてバッテリーがいるということから鉛が要るといふことの様です。この例の様に、資源と人口の問題というのは非常に重大な問題です。この点から、地球というものは、どの位の人間を収容しうる能力があるの



かという様な問題の検討をお願いしたい。

山田会長：資源の問題と人口の関係については、重要な問題ですが、まず、一つを設置し、その進み具合によって次のものをやっていく方向がよいと思う。今度の特別委員会は出生力を中心にしていくことについて、特に御意見がありませんので、事務局の案で設置したいと思います。

(山田会長より特別委員会の委員を指名。)

#### 特別委員会委員

青井和夫委員(社会学) 岩間一郎委員(人口問題  
関係機関) 黒田俊夫委員(人口学)  
篠崎信男委員(人口問題研究所長)  
松山栄吉委員(母子衛生) 安川正彬委員(経  
済学) 山口正義委員(産業医学)  
山本幹夫委員(公衆衛生)

#### 専門委員

青木尚雄専門委員 岡崎陽一専門委員  
浜英彦専門委員 河野桐果専門委員  
村松稔専門委員

特別委員会委員長の互選（黒田委員より、会長に一任との提案あり、会長から山口委員の推せんがあり、全委員賛成で決定。）

#### 山口委員長挨拶

非常に意義の大きな問題で、これからの日本の国策に非常に大きな関係のある問題を「審議いただき訳です」が、その世話役をするということは荷が重すぎるので「さ」います。年が一番上だということに皆さんの賛成をいただき、また、会長からの説明がありましたように、大変な仕事であります。この特別委員会の進行係を務めさせていただきます。

#### 質疑応答（つづき）

安川委員：特別委員会の開催の時期、報告の時期を伺いたい。

企画室長：事務局としては、早い時期にお集り願って、資料を整備して、9月頃から開催したい。

問題がかなりまづかしいが、1年以内を目途にして、まとめを行い、総会を開いて報告をしていただくということを予定しています。

山田会長：今後の運営については、今設置をご承諾いただきました特別委員会において、しばらく審議をしていただき、人口構成の基礎になる出生の動向、死亡率の限界など、基本的事項をつめて頂き、その結果を総会に報告していただき、更に高齢者社会をどうするとか、あるいは資源問題をどうするというような問題に進んでまいりたい。

安川委員：専門的なことですが、出生率と出生力という言葉が混在して使用されているようですが、出生力という言葉がより適切であると思うかどうか。

山田会長：特別委員会の名称は「出生力の動向に関する特別委員会」とします。

〃 閉 会

国立社会保障・人口問題研究所



1 0 3 8 1 0